

第24回
日本スポーツ整復療法学会 大会号

2022年11月

日本スポーツ整復療法学会

The Japanese Society of Sport Sciences and
Osteopathic Therapy (JSSPOT)

目 次

◆第24回日本スポーツ整復療法学会大会 大会次第	1
大会長挨拶	2
大会役員 / 大会会場	3
大会日程	4
参加者へのお願い	5
来場者へのお願い	5
演者へのお願い	6
一般研究発表の座長へのお願い	6
一般研究発表プログラムおよび座長	7
◆第24回日本スポーツ整復療法学会大会 抄録集	8
特別講演 杉山 渉『マウスガード使用の実態と傷害 ～日本スポーツ協会公認「スポーツデンティスト」の立場から～』	9
実技講演 大石 徹「用具を用いた外傷予防のためのトレーニング実践」 ～トレーナーの視点から～」	10
一般研究発表	11
大会開催地および発表演題数	16
編集後記	17

第24回 日本スポーツ整復療法学会大会

大会次第

主催：日本スポーツ整復療法学会

会期：2022年11月6日（日）

帝京科学大学 千住キャンパス7号館

【大会実行委員会事務局】

〒120-0045 東京都足立区千住桜木2-2-1

帝京科学大学 小黒正幸

E-mail：jsspot.eastjapan@gmail.com

大会長挨拶

佐竹 弘靖

(日本スポーツ整復療法学会会長・専修大学 教授)

日本スポーツ整復療法学会第24回学会大会を2022年11月6日(日)に帝京科学大学千住キャンパスで開催させて頂くこととなりました。

日本スポーツ整復療法学会は、我が国独自の柔道整復の手法を取り入れ、怪我の整復法・固定法などスポーツを行うことで生じる障害の施術方法や回復方法を臨床現場の事例研究や大学研究者の科学的研究のもとスポーツ療法学の発展・向上を図ることを目的として活動しております。

新型コロナウイルスの猛威のなか2020東京オリンピックが開催されてから早いもので1年が経ちました。その後、終息を期待するものの第2波、第3波と続き現在では第8波が押し寄せるのではないかと囁かれています。しかし、感染者数は日ごと減少し、政府は経済活動を重視する観点から対面での活動を推奨するに至っています。そのため、本学会大会も久しぶりに対面での開催を決定し、新執行部のもと余念のない準備を行って参りました。

本大会では、多彩な講師の方々をお招きしあらゆる視点からスポーツ整復療法についてご講演をお願いしております。

学会開催にあたり実行委員長の行田直人先生をはじめ、多くの関係者の皆様にご尽力をいただき、大変有難うございました。心より感謝申し上げます。

日本の名所浅草にほど近い会場で有意義な時間をお過ごしいただき、ぜひとも親睦を深めていただきますことを願ってやみません。

令和4年10月吉日

大会日程

【大会前日：11月5日（土）】

17:00～19:00 7号館 4F 7404 教室	理事会
-------------------------------	-----

【大会当日：11月6日（日）】

9:00～	受付開始
9:30～9:45 【7号館 4F 7403 教室】	開会式
9:50～11:00 【7号館 4F 7403 教室】	特別講演 マウスガード使用の実態と傷害 ～日本スポーツ協会公認「スポーツデンティスト」の立場から～ 講師：杉山 渉 先生（帝京科学大学 教授） 座長：行田直人
11:00～12:00 【7号館 4F 7403 教室】	一般研究発表
12:10～12:50 【7号館 4F 7402 教室】	総会（昼休憩） *昼食は各自ご用意ください
13:10～14:00 【7号館 4F 7403 教室】	一般研究発表
14:20～15:50 【7号館 5F アリーナ】	実技講演 用具を用いた外傷予防のためのトレーニング実践 ～トレーナーの視点から～ 講師：大石 徹 先生（防衛大学校 総合教育学群 准教授） 座長：小黒正幸
15:50～16:00 【7号館 5F アリーナ】	表彰式
16:00～ 【7号館 5F アリーナ】	閉会式

— 参加者へのお願い —

1. 大会参加者(共同研究者も含む)は年会費および下記の大会参加費を納めた会員に限ります。また、臨時会員も下記の大会当日参加費を納めることによって参加することができます。
2. 参加者は大会受付で名札を受け取り、会場内では必ず名札をお付け下さい。
3. 演者に対しての質問は、挙手をして座長・司会者の指示に従って下さい。座長・司会者より指名を受けた場合には、「所属」と「名前」を告げた後に発言して下さい。

	前納参加費	大会当日参加費
正会員	3,000 円	4,000 円
学生会員	無料	—
賛助会員	3,000 円	4,000 円
臨時会員	5,000 円	5,000 円
学生臨時会員	—	1,000 円 (当日払いのみ、学生証提示)

正会員・学生会員・賛助会員も本年度の年会費を納めたものに限る。

— 来場者へお願い —

1. 講演中は、携帯電話やスマートフォンをマナーモードへお切り替えください。
2. 講演中の写真撮影、ビデオ(動画)撮影、録音等、また SNS への投稿やインターネット上へのアップロードは固くお断りいたします。
3. 改正健康増進法に基づき、敷地内全面禁煙となっております。ご理解とご協力のほどよろしくをお願いいたします。

宿泊施設の手配

各自で直接手配のほど、お願いいたします。

クローク

講演・一般発表会場となり【7402 教室】の一部をクロークエリアとしていますので、ご利用ください。

— 演者へのお願い —

1. 演者の資格者は年会費および大会参加費を納めた会員に限ります。
(ア) 一般研究発表での演者は開始時間 30 分前までに受付を必ず済ませて下さい。
(イ) 一般研究発表での演者は前演者の発表開始時までには必ず次演者席へお座り下さい。
2. 一般研究発表での時間は、発表時間が 8 分、質問時間が 2 分の計 10 分です。呼び鈴は 7 分に 1 回、8 分に 2 回、10 分に 3 回鳴ります。発表時間を厳守してください。
3. 発表形式は、PowerPoint を使用、プロジェクターによる一面映写を原則とします。
4. 発表時の PC は原則として会場以外のものを使用できません。
5. PowerPoint 用のデータは、試写室【7402 教室】にてあらかじめ投影の確認をしてください。
6. 発表中のスライド操作は発表者の責任において行って下さい。
7. 午前中ご発表の方は、9:30 までに、午後ご発表の方は、12:50 までに試写を終え、受付にて発表スライドの入った USB をご提示ください。係の者が発表会場の PC へ発表スライドを移行する操作を致します。

— 一般研究発表の座長へのお願い —

1. 座長は開始時間の 15 分前に次座長席へ、必ずご着席下さい。
2. 1 演題の持ち時間は 10 分(発表 8 分、質問 2 分)です。時間延長は運営に支障を来すので、時間管理をよろしくお願いします。
3. もしも時間内に討論が終わらない場合には、会場の外で個人的に行うように指示してください。

一般研究発表プログラムおよび座長

【11月6日（日）】

時間	会場	演題	座長
11:10～ 12:00	7号館 7403教室	演題1 「トレーニング効果の評価方法に関する一試案 ー運動エネルギーを用いた評価ー」 丸山敬士、丸山 剛	藤本浩一 (東京海洋大学)
		演題2 「iPhone 水準器, 角度計, easyangle [®] による体重負 荷足関節機能的背屈角度の測定方法の比較」 森 経介	
		演題3 「柔道整復を学ぶ大学生の情動知能に関する一考 察 ー臨床実習が情動知能に与える影響ー」 小黒正幸、行田直人、原 朋弘	
		演題4 「カスタムメイドマウスガードの使用が気分状況 に及ぼす影響 ～愁訴・気分尺度に着目して～」 行田直人、小黒正幸、原 朋弘	
13:10～ 14:00	7号館 7403教室	演題5 「柔道整復施術療養費に関する患者意識調査 ～ 明細書の必要性～」 小野寺恒己	住田卓也 (すみだ接骨院)
		演題6 (活動報告) 「ランニンググッズに関する調査 ー市民ランナ ーの使用実態ー」 小野寺恒己	
		演題7 「ヒポクラテスの樹 ー山形発日本初のヒポクラ テス木ー」 草野久一	
		演題8 「ストレッチポールエクササイズが肩関節と前胸 部圧痛に与える影響」 片岡裕恵	

第24回日本スポーツ整復療法学会大会

抄録集

主催：日本スポーツ整復療法学会

会期：2022年11月6日（日）

【大会実行委員会事務局】

〒120-0045 東京都足立区千住桜木 2-2-1

帝京科学大学 小黒正幸

E-mail： jsspot.eastjapan@gmail.com

11月6日(日) 9:50~11:00

特別講演

マウスガード使用の実態と傷害
～日本スポーツ協会公認「スポーツデンティスト」の立場から～

杉山 渉(帝京科学大学 医療科学部 東京柔道整復学科教授)

日本スポーツ協会は、「国民スポーツの統一組織としてスポーツを振興し国民の体力向上を図り、スポーツ精神を養うことを目的とする」組織で、国民スポーツの振興、スポーツ指導者の養成、そしてそれらを基盤として国民体育大会の開催などを行っている。

「スポーツデンティスト」は、2020 東京オリンピックを見据えて 2013 年度に新たに創設された。

協会が掲げる役割は次のようになっている。

- ① 歯科医師の立場からスポーツに関わる国民の健康管理、スポーツ障害、スポーツ外傷の診断、予防、研究等。
- ② 競技会等の医事運営の支援ならびにチームデンティストとしての参加
- ③ スポーツ歯科医学の研究、教育、普及活動

これらの役割はトップアスリートのみでなく、一般のアスリートおよびスポーツ愛好者に対しても広く行われるものである。

また我が国は平均寿命が男女とも世界一であるが、現在では平均寿命より健康寿命が重要視されてきている。いかに健康で長生きするかが課題であり、高齢者にとってもスポーツと接することは重要となっている。そのためにはスポーツに起因する外傷や障害に対する予防対策は必要である。

歯を多く保っている高齢者の方は、運動する機会や、外出する機会が多いとされ、また、適切な噛み合わせの状態を保持することが、自活できる身体機能の維持、転倒防止、安全な行動、生活の質の維持向上、脳認知機能の維持などへ影響することも分かっている。

スポーツ歯科学の目的・役割のひとつに「歯科的立場から、国民のスポーツを支援することにより、健康寿命の延伸および QOL の向上に寄与すること」があげられる。

マウスガード装着による衝撃力の緩和は、その材料自体がエネルギーを吸収することによるものであり、また残りのエネルギーを他へ広く拡散し、衝撃力の集中を防ぐことにある。

歯科医師により作成、そして正しい咬合や顎位が与えられ調整されたカスタムメイドマウスガードは、適合性が高いのは勿論のこと、外力による衝撃を緩和する役目をもっている。

市販のマウスガードは選手自身が調整を行うものなので正しい顎位が得られず、また適合性が良くないので、装着により却って傷害を招いてしまう可能性があるので注意を要する。

スポーツデンティストの役割はマウスガードの使用や安全教育により、顎顔面・口腔外傷等の予防安全と安全意識の向上に寄与することであり、そしてスポーツ競技力や運動能力の維持・向上を目標とすることである。またそれと共に超高齢者社会になり、元気で健やかな生活が送れるよう高齢者を支援することである。

(プロフィール)

杉山 渉 (Sugiyama Wataru Ph.D.)

1976 年 日本大学歯学部卒業

1980 年 日本大学大学院歯学研究科修了 歯学博士

2011 年 日本大学歯学部兼任講師 (現在に至)

2014 年 帝京科学大学医療科学部教授 (現在に至)

歯科医師、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、鍼灸師、スポーツデンティスト、認定柔道整復師

11月6日(日) 14:20～16:00

実技講演

「用具を用いた外傷予防のためのトレーニング実践」
～トレーナーの視点から～

大石 徹(防衛大学校 総合教育学群体育学教育室 准教授)

新型コロナウイルスの蔓延は、ヒトの時間の使い方や仕事、生活に多様性を与えました。同時に、昨今のボディメイクブーム、フィットネスブーム、24時間ジムの乱立に、SNSによる情報の氾濫などトレーニングに関する環境の変化は著しく、私達身体の専門家、医療人は流行に惑わされることなく選手や患者さんに接しなければなりません。

今回は、トップスポーツでの“ブレ”ることのない原理原則を軸に、流行や目新しさから注目されているトレーニング用具や方法の一部について検討し、“否定せず”、医療人として身体の専門家としての目線でポジティブに応用できるようその特性や使用方法について実践を通して解説します。

(プロフィール)

大石 徹(Tetsu OISHI Ph.D.)

早稲田大学大学院(博士:スポーツ科学)

防衛大学校 総合教育学群体育学教育室 准教授

ラグビーチームにて14年間プロトレーナーとして活動後、大学教員になる。

大学ではJSPO-AT養成に従事するとともに、U19ラグビー日本代表トレーナーとして育成世代の強化に努めた。現在は幹部自衛官となる学生らにフィジカルトレーニングについて、理論と実践とその指導力の向上に努めている。また、JOC強化スタッフとしてレスリング競技の強化とメディカル両面から各世代の選手とチームをサポートしている。

一般研究発表

演題番号 1-8

演題 1

トレーニング効果の評価方法に関する一試案

ー運動エネルギーを用いた評価ー

丸山敬士（長野県 丸山整骨院） 丸山 剛（長野県 丸山整骨院）

キーワード：運動エネルギー 統計的因果推論

【目的】一般のアスリートに於いて、トレーニング効果を評価する基準は時間であるが、これにより外傷や障害に至る事例を屢々診る。本研究ではその防止の為に時間以外のトレーニング効果を評価する基準を求めた。

【方法】被験者は、グラウンド上の直線上 50m 区間を全力で走り、観測者はその時間を計測し、運動エネルギーを算出した。統計検定は基礎統計量及び、回帰分析、伸び率及び統計的因果推論に基づくトレーニング前後（T1・T2）の運動エネルギー量の平均の差の検定を行った。

【結果】被験者の伸び率は、50m(s)では平均 $1.103\% \pm 0.009$ 、運動エネルギーでは平均 $1.249\% \pm 0.025$ であった。T1 と T2 の相関係数は、秒速、運動エネルギー共に、強い相関を示した。平均の差の検定では、伸び率で $p=1.396 \times 10^{-7}$ 、運動エネルギー量で、 $p=0.965 \times 10^{-9}$ となり、両項目共に有意水準 1% で帰無仮説は棄却された。

【考察】エネルギーの原理から、運動エネルギーの変化量は、トレーニングによる運動エネルギーの変化量に等しいと言える。統計的因果推論から運動エネルギー量の平均の差の検定した結果、 $p < 0.01$ と有意な差を示したことから、トレーニングが運動エネルギーの変化に影響を及ぼした事を示唆していると考えられた。

【結論】走力に対するトレーニング効果の評価として運動エネルギーを用いた評価は、統計的因果推論から検討し、トレーニングの評価方法として有用であると考えられた。

演題 2

iPhone 水準器，角度計，easyangle[®]による 体重負荷足関節機能的背屈角度の測定方法の比較

森 経介（朝日医療大学校）

キーワード：体重負荷足関節機能的背屈角度，iPhone の水準器，プラスチック角度計，easyangle[®]

【目的】機能評価に適した体重負荷にて，足関節の機能的背屈角度を iPhone SE の水準器とプラスチック角度計，伊藤超短波社製 easyangle[®] の 3 つの測定方法によって測定値が異なるか検討することを目的とする。

【方法】対象は同意を得られた健常な学生 38 名，平均年齢 20.8 ± 2.7 歳とした。ハーフニーリングでのフロントランジにて 3 つの測定方法にて両足を 1 回ずつ計測。角度計と easyangle[®] は基本軸を床面，移動軸を腓骨頭と外果を結んだ線とし，iPhone の水準器はその長辺をアキレス腱後部に当てて測定した。なお，測定単位は角度計が 5°，iPhone の水準器と easyangle[®] が 1° とした。測定方法による比較に反復測定一元配置分散分析および Bonferroni 法による多重比較を行った。

【結果】平均値は iPhone 右 $17.2 \pm 6.7^\circ$ ，左 $15.1 \pm 8.8^\circ$ ，角度計 右 $13.5 \pm 10.6^\circ$ ，左 $11.7 \pm 13.9^\circ$ ，easyangle[®] 右 $14.7 \pm 7.6^\circ$ ，左 $12.9 \pm 10.3^\circ$ であった。右足での iPhone と角度計 ($P < 0.01$, 95%CI[1.17-6.24]) および右足での iPhone と easyangle[®] ($P < 0.05$, 95%CI[0.48~4.46]) にのみ有意差が認められた。

【考察】右足の iPhone で測定値に差が見られたことは，移動軸ではなく体表から測定するという測定方法の違いがもたらすことが考えられるが，95%信頼区間からは誤差レベルの範囲内であり，また，それぞれの平均値の差も約 5°未満であるため，どの測定方法においても，同質的な測定が可能であることが示唆された。また，iPhone や easyangle[®] では角度計のように両手を使わずに，背屈角度を容易に計測できるため，体重負荷での足関節機能的背屈角度の計測においても，その実用性が期待される。

演題3

柔道整復を学ぶ大学生の情動知能に関する一考察

～臨床実習が情動知能に与える影響～

小黒正幸（帝京科学大学）、行田直人（帝京科学大学）、原 朋弘（帝京千住接骨院）

キーワード：柔道整復師、臨床実習、情動知能、EQS

【目的】柔道整復を学ぶ学生の情動知能を、情動知能スケール（以下；EQS）を用いて調査し、その傾向を分析すること。また、臨床実習が情動知能に与える影響を調査すること。これらにより、柔道整復を学ぶ学生にどのような情動能力が必要か、臨床実習が情動知能の育成に効果があるのかを調査し、考察することを目的とする。

【方法】調査対象は、研究に同意を得た大学4年生84名。臨床実習前後に、質問紙EQSを用いて対象学生の情動能力の傾向を調査し、臨床実習前後での変化からその影響を考察する。

【結果】対象学生のEQS平均得点値は、臨床実習前後とも、全集団標準の平均値を自己対応、対人対応、状況対応の3領域のすべてにおいて大きく上回っていた。中でも対人対応領域の下位因子である「喜びの共感」因子が、有意に得点が高かった。臨床実習後は自己対応領域、状況対応領域の得点が増加していたが、対人対応領域では有意な変化は認められなかった。

【考察】柔道整復を学ぶ学生にとって、将来、患者とのコミュニケーション能力を含む、対人対応領域の能力が重要となることが予想されるため、この領域の情動知能の高さが必要であると考えられた。また、臨床実習にはその成功体験から、特に状況対応領域の情動能力を上げる影響があると考えられた。

【結論】柔道整復を学ぶ大学4年生84名の情動知能傾向を、EQSを用いて調査した結果、標準得点と比べ全体的に得点が高く、中でも対人対応領域の得点が高く、常に患者と接する将来の職業適性として、望ましい傾向にあった。また臨床実習は、将来の臨床において必要となる状況対応領域における情動知能の育成にプラスの影響を与える可能性が示された。

演題4

カスタムメイドマウスガードの使用が気分状況に及ぼす影響

～愁訴・気分尺度に着目して～

行田直人（帝京科学大学）、小黒正幸（帝京科学大学）、原 朋弘（帝京千住接骨院）

キーワード：カスタムメイドマウスガード、愁訴、二次元気分尺度

【目的】マウスガードの使用による筋力への影響や各種スポーツ時の顎口腔外傷の防止に関する報告は多い。しかし、マウスガードの使用が気分状況に及ぼす影響についての報告はみられない。本研究では、カスタムメイドマウスガードを使用することによる気分状況に及ぼす影響および愁訴への影響について検討を行った。

【方法】対象は、成人男性10名とした。カスタムメイドマウスガード（以下、CMG）は、スポーツデンティストにより、各対象者の歯型を採り歯列模型を作製し、咬合調整がなされた厚さ2mmを使用した。気分状況調査は、二次元気分尺度短縮版（以下、気分尺度）を使用し、愁訴調査は各対象者の主観により眼精疲労等について、全く感じないから非常に感じるの4段階にて評価した。気分尺度、愁訴の調査時期は、CMGを装着する前（以下、初回）、CMGを初めて装着した後（以下、CMG装着後）、CMGを装着して1週間後（以下、CMG1週間後）とした。CMG装着は毎日行い、日中の活動中に1日2時間の装着とした。また各調査時にCMG装着感についての調査も行った。

【結果】気分尺度の結果は、初回と比較しCMG装着後、CMG1週間後で「無気力」が改善傾向を示した。愁訴調査の結果は、初回と比較しCMG装着後、CMG1週間後で眼精疲労感が低い傾向を示した。CMG装着感の結果は、CMG装着後とCMG1週間後の共に呼吸のしやすさは良い傾向であり、吐き気も感じにくかった。

【考察】使用したCMGは下顎安静の得られる厚さであり、左右の噛み癖などを改善させる咬合調整がなされていた。このことから顎口腔系の左右の筋緊張のバランスおよび血流が安定し、顎口腔近くの眼の疲労感がCMG装着時で低い傾向を示したと思われる。それに伴い「無気力」の気分が改善傾向を示したものと思われる。

【結論】本研究で用いたCMGは「無気力」に関する気分状況や眼精疲労軽減に良い影響を及ぼす可能性があると思われた。

演題5

柔道整復施術療養費に関する患者意識調査

～明細書の必要性～

小野寺恒己（東町整骨院）

キーワード：柔道整復施術療養費、施術費明細書、受領委任払い、患者意識

【目的】柔道整復施術療養費（以下「療養費」）の受領委任払い（以下「委任払い」）において管理柔道整復師（以下「JT」）は都道府県知事らとの「確約書」により、療養費支給申請書（以下「申請書」）を交付し、その際、施術費明細を証明し患者等に代わって支給申請する。令和4年10月以降、一定要件の施術所では施術費明細書交付義務があり、今後全ての施術所で通院毎の明細書の交付義務が検討されることから、患者の明細書の必要性の認識を明らかにすることを目的とした。【方法】柔道整復施術所通院中の患者178名を対象に、明細書の必要性と理由を質問紙調査により回答を得た。【結果】「必要」が14名（7.9%）、「どちらかといえば必要」が22名（12.4%）、「どちらかといえば必要でない」が46名（25.8%）、「必要でない」が96名（53.9%）であ「必要」った。の理由は「当然の権利」が10名（76.9%）と最多であった。「必要でない」の理由は「よくわからない」が40名（41.7%）と最多で、「従来もらってない」が38名（39.6%）であった。

【考察】JTは暦月単位で申請書を作成し被保険者等に代わって保険者等に送付する中で、月に1回明細書の内容を網羅した証明書を交付しているが、医科の診療報酬同様に通院ごとまたは月単位での明細書の交付が求められている。また事務負担（発行加算13円（月1回のみ）：医科は毎回10円）が大きい上に、二重交付することになる。療養費の算定方法は医療技術の発展に伴う施術方法の多様化を反映していない実情では、施術費の明細によって施術内容の証明にはならず、また医科との用語の相違による理解困難も合わせて患者には意味のあるものとは考えられない。【結論】柔整師に受領委任した患者で明細書の交付を求めるのは20.3%とごく僅かであった。患者ニーズが無いまま、明細書の二重交付の義務をJTに事務負担させる事が明らかになった。

演題6

ランニンググッズに関する調査

—市民ランナーの使用実態—

小野寺恒己（東町整骨院）

キーワード：シューズ、インソール、コンプレッションウェア

【目的】市民ランナーの増加やランニング歴に比例し身体能力が低下するためランニング障害を予防・改善することは重要である。インソールやコンプレッションウェアは運動機能を向上させる一定の効果があることから、市民ランナーがその症状軽減や障害予防等のためにランニンググッズを使用している実態を調査した。

【方法】第30回原始林クロスカントリー大会出場者486名のうち、トレーナールーム利用者64名（男性54名、女性10名）を対象に質問紙により、ランニング障害の有無、北海道マラソン2022参加の有無、ランニング実践状況、インソールやコンプレッションウェア使用状況と目的について回答を得た。

【結果と論議】ランニング障害がありながらの参加者が12名（18.7%）、本大会7日前の北海道マラソン参加者が14名（21.8%）、ランニング実践では「ほぼ毎日」が12名（18.8%）、「週3回以下」が27名（42.2%）等であった。インソールの使用では、「変えていない」が39名（61.0%）、「既製品使用」が10名（15.6%）、「オーダーメイド」が5名（7.8%）であり、使用目的は「筋肉疲労の軽減」と「疼痛の軽減と予防」が高率であった。コンプレッションウェア等の使用では、使用している者が33名（51.6%）であり、その内訳では「ソックス」が18名（28.1%）、「ふくらはぎ」が13名（20.3%）次いで「パンツ」「膝サポーター」等であり、その使用目的はインソールと同様であった。著者ら（2014）の当学会発表の調査と比較すると、インソールの使用が低率、コンプレッションウェア等の使用が高率であった。その要因は、ランニングシューズそのものの進化と、ランニングウェア商品が普及していることが考えられた。

演題7

ヒポクラテスの樹 ー山形発日本初のヒポクラテス木ー 草野久一（東北支部・都接骨史会員）

キーワード：ヒポクラテス

【はじめに】米沢藩士を先祖に持つ山形市の篠田病院の二代目篠田秀男先生は慶応大学医学部産婦人科医が昭和30年（1955）欧州医学学会出席の後ギリシャコス島の医学史跡、今に残るポプラの樹見てこの木の周りで医聖ヒポクラテスが医学講座を広めたことに感激し鈴懸の木の種子を持ち帰り発芽させた苗木を各種教育機関や病院で西洋医学のシンボルの趣旨理解者の日本人がコス島に訪問して持ち帰り日本で100種類の株に広がった。

[その他の各種株]1956年新潟大学蒲原宏先生発芽させた蒲原株14株、1972年緒方富雄先生がギリシャから送ってもらった緒方株、1978年日赤の小林株51株、1995年日本・ギリシャ協会株5株、その他、不明七株

【ヒポクラテスとは】ヒポクラテス（Hippokratēs）[前460ころ～前375ころ]古代ギリシャの医師。迷信や呪術を排して臨床の観察と経験を重んじ、科学的医学の基礎を築いた。医師の倫理についても論じ、医学の父と称される。ヒポクラテスを名乗っていた医人は代々5人いたと言われている。ヒポクラテスが残した業績は以下のごとく[肩関節脱臼整復術、ヒポクラテスの誓い、下顎脱臼の整復法、ヒポクラテス顔貌]

【まとめ】医学の象徴は西洋医学が主流であるが、その根拠となるのが、ヒポクラテスが迷信や呪術を排除して事実だけを採用したことが後世に業績が残ったのである。博士は温故知新を心情に医学の心でヒポクラテスの樹の種子を持ち帰り我が国に精神持ち帰り伝播させた業績は大きい樹は我が国の医科大学医療技術学校に広がりヒポクラテスの弟子たちに受けつながら良医が育成されている。

演題8

ストレッチポールエクササイズが肩関節と前胸部圧痛に与える影響 片岡裕恵（東京有明医療大学保健医療学部柔道整復学科）

キーワード：ストレッチポール、ベーシックセブン、柔軟性、圧痛

【目的】本研究では、ストレッチポールエクササイズ（以下、ストレッチ）が肩関節可動域および前胸部圧痛に与える影響を検討することを目的とした。

【方法】対象は健康成人男性10名とし、ストレッチを行うSP群5名と対照群5名に群分けした。SP群はストレッチ前後に肩関節外転90°での内旋・外旋可動域と前胸部圧痛を測定した。前胸部圧痛の測定部位は大胸筋胸筋三角の下部とし、Visual analog scaleを用いて評価した。対照群では、ストレッチを行わず安静仰臥位とし、SP群と同様の測定を行った。

【結果】対照群では、安静仰臥位前後においてすべての測定項目で有意差はなかった。SP群では、肩関節外旋可動域がストレッチ前 $106.6 \pm 12.4^\circ$ 、ストレッチ後 $112.0 \pm 12.8^\circ$ であり、ストレッチ前後で有意差があった ($t=2.87$, $p=0.02$)。肩関節内旋可動域は、ストレッチ前 $68.5 \pm 14.1^\circ$ 、ストレッチ後 $75.5 \pm 13.2^\circ$ であり、ストレッチ前後で有意差があった ($t=2.39$, $p=0.04$)。前胸部圧痛はストレッチ前 44.7 ± 19.7 mm、ストレッチ後 35.8 ± 21.0 mm であり、ストレッチ前と比べてストレッチ後に減少する傾向がみられた ($t=2.23$, $p=0.05$)。

【考察】ストレッチポールを用いたエクササイズは、外転90°での肩関節可動域に対して一定の効果があったと考えられる。また前胸部圧痛について、測定部位の深層には大胸筋、小胸筋が存在すると考えられる。ストレッチポールを用いたエクササイズによりこれら筋肉の緊張が改善されたと考えられる。

【結論】ストレッチポールを用いたエクササイズにより、肩関節外転90°での内旋・外旋可動域が増加すること、前胸部の圧痛が改善される可能性があることが明らかになった。

大会開催地および発表演題数

	地区	会 場	期 間	演題数
第1回	関東	東京商船大学越中島会館（東京）	1999年9月18日・19日	35
第2回	関東	東京商船大学越中島会館（東京）	2000年10月28日・29日	44
第3回	関西	大阪電気通信大学寝屋川校舎（大阪）	2001年10月27日・28日	42
第4回	関東	東京商船大学越中島会館（東京）	2002年10月26日・27日	42
第5回	関西	大阪体育大学（大阪）	2003年10月18日・19日	32
第6回	北海道	北海道自動車短期大学（北海道）	2004年9月19日・20日	38
第7回	関東	千葉大学西千葉キャンパス（千葉）	2005年10月29日・30日	38
第8回	関東	東京工業大学大岡山キャンパス（東京）	2006年10月21日・22日	44
第9回	関東	千葉大学西千葉キャンパス（千葉）	2007年10月20日・21日	39
第10回	関東	東京海洋大学品川キャンパス（東京）	2008年10月25日・26日	41
第11回	北信越	大原学園菅平研修所（長野）	2009年10月24日・25日	38
第12回	関東	国立館山大学永山キャンパス（東京）	2010年10月23日・24日	29
第13回	西日本	明治国際医療大学洛西キャンパス（京都）	2011年11月12日・13日	35
第14回	東日本	専修大学神田キャンパス（東京）	2012年10月25日・26日	26
第15回	西日本	久留米大学御井キャンパス（福岡）	2013年11月3日・4日	32
第16回	東日本	日本大学桜門会館（東京）	2014年10月25日・26日	20
第17回	西日本	宝塚医療大学（兵庫）	2015年10月24日・25日	26(10)
第18回	東日本	北海道立道民活動センターかでの2.7（北海道）	2016年10月29日・30日	23
第19回	西日本	明治東洋医学院専門学校（大阪）	2017年12月9日・10日	20
第20回	東日本	東京海洋大学品川キャンパス（東京）	2018年10月20日・21日	12(5)
第21回	西日本	朝日医療大学校（岡山）	2019年10月13日・14日	16
第22回	東日本	誌上発表	2021年3月31日	5
第23回	西日本	オンライン	2021年10月24日	5

第17回大会の（ ）内は、学生ポスター演題数

第20回大会の（ ）内は、学生発表コンペ演題数

編集後記

日本スポーツ整復療法学会第24回大会号（オンライン発行）をお届けします。本号には、特別講演、実技講演および研究発表8題の抄録を掲載しております。学会大会は最近2年間、対面での実施が叶いませんでした。今回の学会大会では、お集まりになる先生方との質疑応答や意見交換・討論が盛んに行われ、研究活動や日々の用務への刺激となりますことを期待しております。また、発表された演題に関する原稿が投稿され、研究誌が賑やかになることも期待しています。

学会大会を主催・準備くださいました帝京科学大学の先生方に心から感謝いたします。

（編集委員長 千足耕一）

編集委員会

編集委員会

千足耕一（委員長）

菊地俊紀 藤田英二 蓬郷尚代

The 24th congress of JSSPOT

November 2022

禁無断転載

日本スポーツ整復療法学会 第23回大会号

2022年10月28日発行

発行者 日本スポーツ整復療法学会 会長 佐竹弘靖

発行所 日本スポーツ整復療法学会 事務局

〒275-8576 千葉県習志野市新栄2-11-1

日本大学生産工学部 菊地俊紀研究室内

Fax & Phone: 047 - 474 - 2885

Email: infojsspot@gmail.com

The 24th congress of JSSPOT

November 2022

The Japanese Society of Sport Sciences and Osteopathic Therapy (JSSPOT)